

第4回皇學館大学 地(知)の拠点整備事業 公開シンポジウム報告書

—伊勢志摩で共に暮らし続けることのミライを考えあうシンポジウム vol.4—

1. 概要

日時	平成30年9月9日(日) 13:30~15:30
場所	皇學館大学 621 教室
プログラム	<p>I部 (13:30~13:45) セレモニー</p> <p>学長挨拶 皇學館大学 学長 清水 潔 COC 概要および進捗説明 皇學館大学教育開発センター長 齋藤 平</p> <p>II部 (13:45~14:55) シンポジウム(フューチャーセッション) ※登壇者等については、p.2~3 参照</p> <p>III部 (14:55~15:15) パネル交流会(学生によるCLL活動紹介) ※パネル出展活動については、p.3 参照</p> <p>まとめ・表彰式 (15:15~15:30)</p>
参加人数	45名(登壇者を含む) ※属性については別添参加者アンケート結果参照
配布資料	プログラム、登壇者リスト、アンケート用紙、コメントカード 『伊勢志摩定住自立圏共生学』パンフレット、 皇學館大学 COC 事業報告書 Vol.4
取材報道機関 (敬称略)	中日新聞、中部経済新聞社

2. 各セッション内容

I 部 セレモニー

■学長挨拶（皇學館大学学長 清水 潔）

本学は、平成26年度文部科学省 地（知）の拠点整備事業（COC事業）に採択され、平成27年度から本格的にスタートし、今年度最終年度を迎えます。この補助事業は、伊勢志摩圏域である3市5町の自治体と、多くの関係の諸団体の協力をもとに推進して参りました。深く感謝申し上げます。

学生は、実際に地域の課題に直面し、それをどのように解決していくか、具体的な学びを通して、コミュニケーションあるいは企画運営能力を高めて、確実に総合的な人間に成長したと実感しています。同時に、地域の皆様が未来の発展のためにいかに辛抱し、各々の立場で努力されていることを、肌を触れ合いながら感じもさせていただきました。共に協働させていただき喜び、まことに得難い学びをいただきました。

今日のシンポジウムはこれまでの総括とし、改めて振り返り、成果、課題、反省を明らかにし、次年度以降の新たな地方活性化の取組とし、将来の展望に繋げて参りたいと考え、開会の挨拶と致します。



■COC 概要および進捗説明（皇學館大学教育開発センター長 齋藤 平）

このCOC事業は、『伊勢志摩定住自立圏共生学』科目Ⅰ・Ⅱを連携の市町様と関係団体の皆様に講義していただき、そして科目Ⅲ・Ⅳは株式会社三十三総研の方に講師として担当いただき、実際のデータに基づいた授業を展開していただいております。その結果、年々受講者が増え、偏に授業内容を毎年ブラッシュアップしながらより良いものをしていただいたご支援の賜物と感謝しております。また、課外活動である『CLL活動』は、現場へ出て現場の方々とともに課題を考えていくことで、問題発見力や解決力がつくと学生自身も実感していると見て取れます。

引き続き本学としては、COC事業を継続し皆様のお力添えをいただきながら地域志向科目の充実に努めて参りたいと思っております。



Ⅱ部 シンポジウム（フューチャーセッション）

【登壇者】

*大学生（5名）

秋山 実愛（文学部神道学科 4年）

角谷 魁都（現代日本社会学部現代日本社会学科 4年）

北村 航大（現代日本社会学部現代日本社会学科 4年）

岩野 和麿（文学部国文学科 3年）

渡辺 楓（文学部国史学科 2年）

*コメンテーター（3名）

松田 丈輔（農業生産法人 有限会社 松幸農産 代表取締役社長）

廣垣 大毅（伊勢市観光協会青年部）

中川 泰成（玉城町役場総合戦略課 主幹兼係長）

【ファシリテーター】

服部 慈樹（文学部国史学科 2年）

【グラフィッカー】

林 雅也（教育学部教育学科 4年）

今回のシンポジウムのテーマは、登壇する学生たちの失敗談を聞き、コメンテーターの方と共有、分析して、これからどのようにその失敗を活かしていくかを話し合っています。

まず、今回の趣旨である「失敗エピソード」をスケッチブックに書いてもらい紹介しました。「緊張で、商品説明時、言葉に詰まってしまった」、「リーダーの難しさ」、「目標としていたうどんの販売数を下回ってしまった」など、ひとりひとり語りました。それについて、コメンテーターから、「失敗は大きなプラス」、「失敗はチャンスと捉え、良いほうに考えを変換して行ってほしい」、「失敗したときに、機転をいかに利かせられるかの能力が重要」など、温かい言葉を学生に伝えました。

次に、その失敗を、登壇学生同士でアドバイスもし合い、「リーダーとして頑張っている姿を見た、自信をもってほしい」と先輩から励ましの言葉が出ました。

会場からは、「ぜひ、コメンテーターの失敗談もお聞きしたい」との意見が出て、「何歳になっても失敗はする。反省はしても後悔はしてほしくない」、「その時失敗とは分からないものもある。長い目で見て、信じて進んで行ってほしい」など、失敗した自身の体験を踏まえて力強い言葉を話しました。

また、会場からは、「失敗できる環境に踏み出そう」、「失敗と認めることは勇気がいることだ」と、励ましのコメントが登壇者へ送られました。

最後に、失敗を今後繰り返さないためにと称し、教訓を書き出しました。「失敗から多くを学んだ」、「リーダーは引っ張っていくことも必要だが、仲間を信じ、繋ぐ役目を



担っていきたい」、「失敗を話す機会をいただけて良かった」など、今回の失敗の経験を活かし、失敗を恐れず楽しみたいと前向きな意見が交わされました。



Ⅲ部 パネル交流会（学生による CLL 活動紹介）

Ⅲ部の交流会では、CLL 活動を紹介するパネル交流会を行いました。

【中間報告パネル展示 CLL 活動】

1	大紀町木のおもちゃプロジェクト
2	皇學館みらい対話団
3	防災のための大湊地域資源発掘プロジェクト
4	南伊勢町 UAV（ドローン）防災活用プロジェクト
5	「みえ食旅パスポート」利用促進プロジェクト
6	伊勢シーパラダイス、リニューアルプロジェクト
7	TMMF(玉城ミュージックフェスティバル実行委員会)
8	産学官連携日本酒プロジェクト
9	あばばい ～伊勢志摩国立公園 学生部会～
10	宇治山田産官学拠点「まちなか研究室」運営プロジェクト
11	みんなの声を聞くには？プロジェクト
12	伊勢河崎商家リノベーションプロジェクト
13	離島ツアー in 間崎島 — 体験ツアーの企画と実施 —
14	着ぐるみ（伊勢まいりん）を使用した伊勢市観光事業のPR活動
15	伊勢おはらい町防災プロジェクト
16	TMK ミライデザインプロジェクト(玉城町下外城田明るい未来推進プロジェクト)

※ 展示された中間報告は、COC 事業ホームページ（<http://coc.kogakkan-u.ac.jp/>）に掲載



まとめ・表彰式

パネル交流会後、5つの失敗エピソードから、最も価値のある失敗（MVM=Most Valuable Mistake）に選ばれたのは、文学部国史学科2年生の渡辺 楓さん。

「嬉しいと言っていいのか・・・」と戸惑いながら、「ひじきうどんを売りたいくて、でも失敗して、失敗したのに賞状がもらえて、ひじきうどんのおかげです！開発してくださった方に感謝します」と述べました。

コメンテーターの廣垣さんからは、「よく頑張ったね」と賞し、学生たちへ伊勢まいりんくんのグッズを手渡すサプライズもありました。

本学板井准教授から、司会を務めた服部さんは、CLL活動の皇學館みらい対話団でファシリテーターを学びながら地域の方との話し合いの場をこれまで経験しているが、こういう場は初めてで緊張した様子であったが、皆様には彼の挑戦を温かく見守っていただきました。そして、この4年間、学生が地域の皆様に伊勢志摩に育てていただき力を身につけることができました、と感謝を伝えました。

齋藤教育開発センター長からは、学生諸君らにこのシンポジウムを任せたいと昨年度から思っていたので、今回こうして実現できたことは喜ばしいことだと述べ、閉会を宣しました。

